

29年12月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 12月1日～ 29年12月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/12月	30/1月	2月
仕入 動向	国産材製材品	△ 8.3	△ 16.7	△ 33.3
	外材製材品	△ 16.7	△ 41.7	△ 50.0
	構造用集成材	△ 10.0	△ 50.0	△ 70.0
消費 動向	国産材製材品	△ 16.7	△ 41.7	△ 33.3
	外材製材品	△ 25.0	△ 33.3	△ 58.3
	構造用集成材	△ 20.0	△ 40.0	△ 60.0
在庫 動向	国産材製材品	△ 25.0	△ 33.3	△ 8.3
	外材製材品	△ 25.0	△ 33.3	△ 16.7
	構造用集成材	△ 10.0	△ 40.0	△ 30.0

・プレカット加工部材の荷動き動向は仕入、消費、在庫動向とも3カ月連続減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	29/12月	30/1月	2月
受注	△ 20.0	△ 50.0	△ 60.0
加工	△ 10.0	△ 50.0	△ 60.0
受注残	△ 20.0	△ 40.0	△ 60.0

・受注動向は受注、加工、受注残とも3カ月連続減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・原木全て強気配なれど、製品価格は外材だけ上昇。地域性により今月ピーク、春まで低迷期。在庫は手持ち多めで冬越。構造用集成材は取扱いなし。
・2月の不需要期に備えて仕入は減らしていく。2月に向け消費は減少していく。在庫を減らしていきたいところだが、仕入と消費のバランスで横ばいが精いっぱい。

(受注動向)

・12月をピークにして減少傾向。
・2月が不需要期の底。そのため徐々に受注も減少。